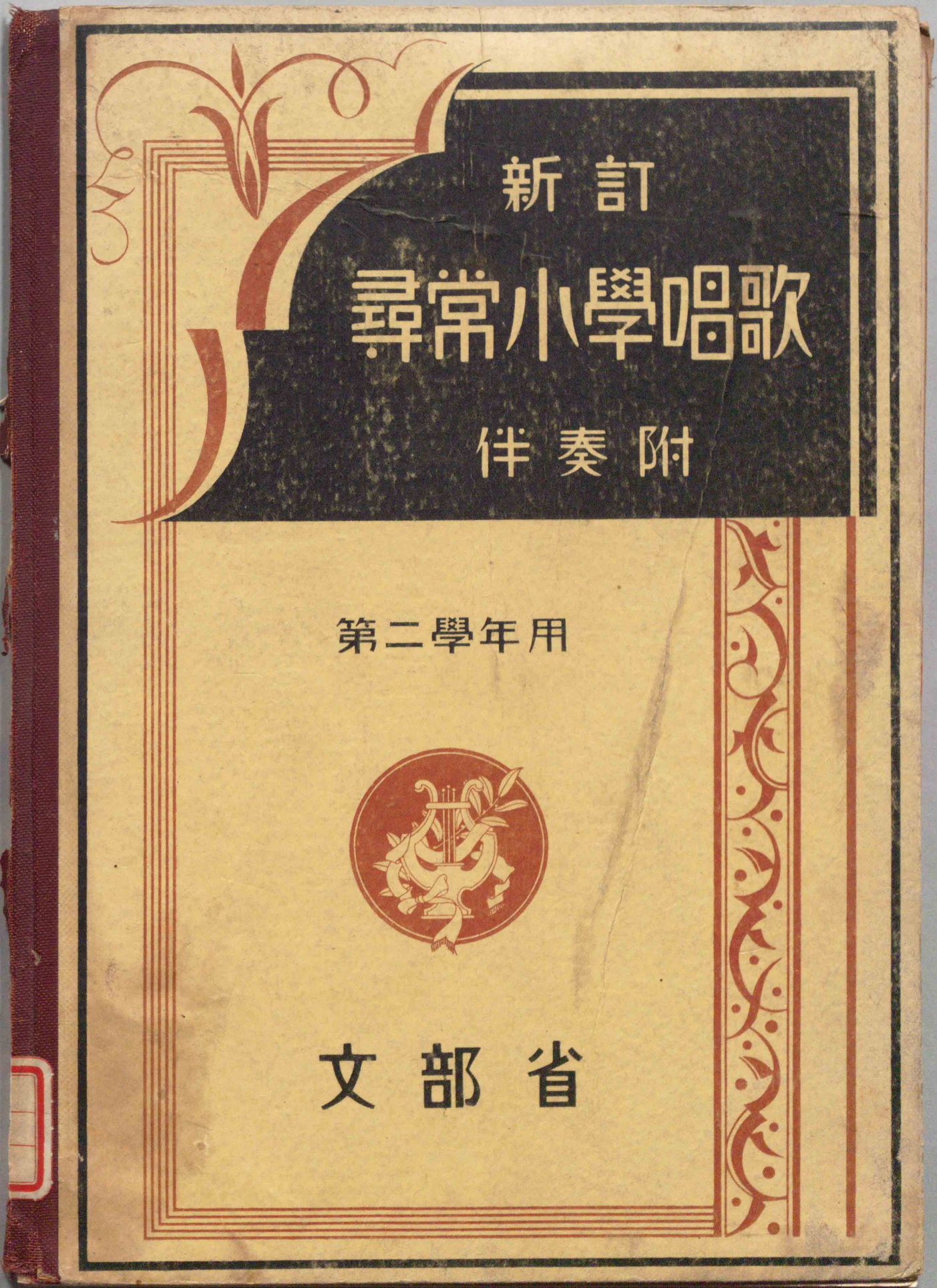
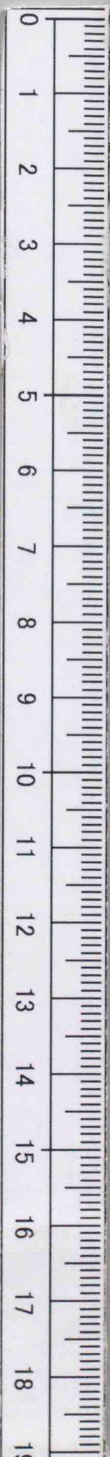
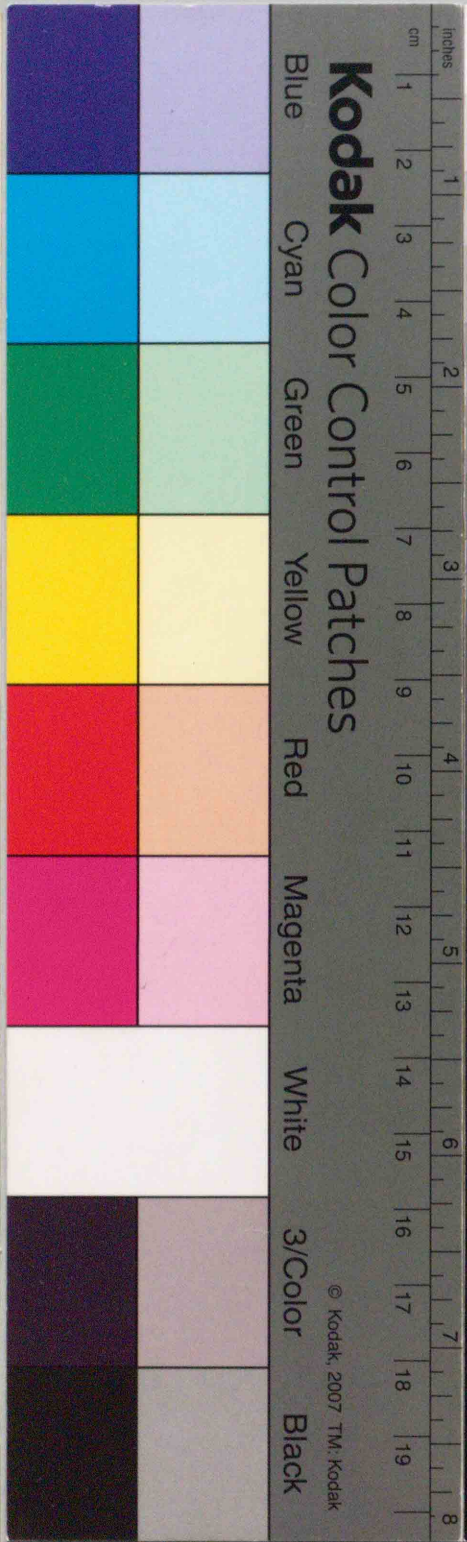


40955

教科書文庫

4
760
31-1935
25000 29835











# 尋常小學唱歌

伴奏附

第二學年用



登錄番号	29835
分	375.976
類	M

文部省



## 緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ每卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ<sup>尋常</sup>國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採リ、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 七、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ。

昭和七年四月

文 部 省

## 目 次

一 櫻	2
二 ラヂオ	4
三 二宮金次郎	6
四 雲 雀	8
五 折 紙	10
六 小 馬	14
七 田 植	16
八 竹の子	18
九 雨	20
一〇 金 魚	22
一一 蟬	24
一二 蛙と蜘蛛	26
一三 こだま	28
一四 浦島太郎	30
一五 ポプラ	32
一六 かけっこ	36
一七 案山子	38
一八 が ん	40
一九 富士山	42
二〇 影法師	44
二一 紅 葉	46
二二 時計の歌	48
二三 うちの子ねこ	50
二四 雪	52
二五 梅に鶯	54
二六 母の心	56
二七 那須餘一	60



櫻

♩ = 112

櫻

一カスミニーツツクハハナノクモ  
ニむかふ一のやまのはやまざくら

ノヤマニツモルハハナノユキ  
こちらのをかのはやへざくら

ハールノシグワツハウツクシヤ  
やへもひとへもうつくしや

二

櫻

ドチラムイテモハナバカリ  
はなはこのはなさくらばな

一、櫻

一、霞につづくは花の雲

野山につもるは花の雪

春の四月はうつくしや

どちら向いても花ばかり。

二、向かふの山のは山櫻

こちらの岡のは八重櫻

八重も一重もうつくしや

花はこの花、  
櫻花。



ラヂオ

♩ = 76

ラヂオ

— ア サノ ラヂオが マウ— シマ ス  
ニ ば んの らぢおが まう— しま す

ミ ナサン オ ハ ヤウ ゴ ザ イ マ ス  
み なさん お ま ちど ほ — で し た

サア ハ ジ マツ タ ラヂオノ タイ サウ  
さあ は じ まつ た こ ども の じ かん

ラヂオ

ミ ン ナ デ ヤ リ マ セウ ゲ ン キ ニ ヤ リ マ セウ  
み ん な で き き ま せう た の し く き き ま せう

ニ、ラヂオ

一、朝のラヂオが申します、

皆さんお早うございます。

さあ始つた、ラヂオの體操。

みんなてやりませう、

元氣にやりませう。

二、晩のラヂオが申します、

皆さんお待ちどほでした。

さあ始つた、子どもの時間。

みんなて聞きませう、

楽しく聞きませう。



二宮金次郎

♩ = 100

二宮金次郎

一 シ バ カ リ ナ ハ ナ ヒ ツ ラ チ ヲ ツ ク リ  
 二 ほ ね み を を し ま す し ご と を は げ み  
 三 カ ゲ フ ー ー ダ イ ジ ニ ツ ヒ エ ヲ ハ フ キ

オ ー ヤ ノ テ ヲ ス ケ オ ト ト ヲ セ ワ シ  
 よ ー な ベ す ま し て て な ら ひ と く し ゃ  
 ス コ シ ノ モ ノ ラ モ ソ マ ツ ニ セ ズ ニ

キ ャ ウ ー ダ イ ナ カ ヨ ク カ ツ ー カ ウ ー ツ ク ス  
 せ は し い な か に も た ゆ ま す ま な ふ  
 ツ ヒ ニ ハ ミ ヲ タ テ ヒ ト ヲ モ ス ク フ

六

二宮金次郎

テ テ ホ ホ ン ン ハ ハ ニ ニ ノ ノ ミ ミ ヤ ヤ  
 テ テ ホ ホ ン ン ハ ハ ニ ニ ノ ノ ミ ミ ヤ ヤ

キ キ ン ン ジ ジ ラ ウ ー ー ー ー  
 キ キ ン ン ジ ジ ラ ウ ー ー ー ー

三、二宮金次郎

七

- 一、柴刈り、繩なひ、草鞋をつくり、親の手を助け、弟を世話し、兄弟仲よく孝行つくす、  
 手本は二宮金次郎。
- 二、骨身を惜しまず仕事をはげみ、夜なべ済まして手習讀書、せはしい中にも撓まず學ぶ、  
 手本は二宮金次郎。
- 三、家業大事に、費をはぶき、少しの物をも粗末にせず、遂には身を立、人をもすくふ、  
 手本は二宮金次郎。



雲 雀

♩ = 132

雲  
雀

First system of musical notation on page 8, featuring a vocal line and piano accompaniment. The tempo is marked as ♩ = 132. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is 4/4. The piano part is marked *mp*.

Second system of musical notation on page 8, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part is marked *mp*.

Third system of musical notation on page 8, featuring a vocal line and piano accompaniment.

八

雲  
雀

First system of musical notation on page 9, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part is marked *mf*.

Second system of musical notation on page 9, featuring a vocal line and piano accompaniment.

四、雲 雀

九

一、びいびいびいと囀る雲雀、

囀りながら何處まであがる、

高い高い雲の上か、

聲は聞えて見えない雲雀。

二、びいびいびいと囀る雲雀、

囀りやんで何處らへ落ちた、

青い青い麥の中か、

姿かくれて見えない雲雀。



折 紙

♩ = 72

折  
紙

Musical notation for the first system on page 10, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic markings *mp* and *p*.

一 シ ロ イ カ ミ テ ナ ニ ヲ ラ ウ 一  
二 あ か い か み て な に を ら う 一

Musical notation for the second system on page 10, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic marking *p*.

ワ タ シ ノ ス キ ナ ソ ル ヲ ラ ウ 一  
わ た し の す き な ふ ね を ら う 一

Musical notation for the third system on page 10, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic markings *mf* and *p*.

折  
紙

ソ ヨ ソ ヨ ハ ル カ ゼ フ イ タ ナ ラ  
ゆ ら ゆ ら お ほ な み よ せ た な ら

Musical notation for the first system on page 11, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic marking *p*.

タ カ ク オ ホ キ ク ハ バ タ イ テ  
た か く ま つ か な ほ を は つ て

Musical notation for the second system on page 11, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic marking *mf*.

ツ ウ ツ ト ソ ラ マ テ ト ン テ イ ケ  
す い す い し ま ま で は し り た せ

Musical notation for the third system on page 11, including vocal line and piano accompaniment. The piano part features dynamic markings *f* and *p*.



五折紙

一、白い紙で何折らう、

私の好きな鶴折らう。

そよそよ、春風吹いたなら、

高く大きく

羽ばたいて、

つうつと、空まで飛んで行け。

二、赤い紙で何折らう、

私の好きな船折らう。

ゆらゆら、大波寄せたなら、

高く真赤な

帆を張つて、

すいすい、島まで走り出せ。



小 馬

♩ = 112

小  
馬

First system of musical notation for '小馬'. It consists of a vocal line and a piano accompaniment. The piano part has dynamics *f* and *mf*. There are some markings like 'Red.' and a star symbol.

Second system of musical notation for '小馬'. It includes a vocal line with lyrics and a piano accompaniment with a dynamic marking of *mp*.

Third system of musical notation for '小馬'. It includes a vocal line with lyrics and a piano accompaniment with a dynamic marking of *mp*.

一四

小  
馬

First system of musical notation for '六小馬'. It includes a vocal line with lyrics and a piano accompaniment with a dynamic marking of *mf*.

Second system of musical notation for '六小馬'. It includes a vocal line with lyrics and a piano accompaniment with a dynamic marking of *mf*.

六小馬

一、はいしい、はいしい、  
あゆめよ、小馬。  
山でも、坂でも、  
ずんずん歩め。  
お前が進めばわたしも進む。  
歩めよ、歩めよ、  
足音たかく。

二、  
ばかばか、ばかばか、  
走れよ、小馬。  
けれども急いで  
つまづくまいぞ。  
お前が轉べばわたしも轉ぶ。  
走れよ、走れよ、  
轉ばぬやうに。

一五



田 植

♩ = 120

田 植

一 シーロ イ ス ゲガ サ ア カダ ス キ  
ニ う 一 糸 る て さ き も あ し ど り も

ソ ー ロ ヒ ス ガ タ ノ サ フ ト メ ガ  
ふ ー し も そ ろ へ て さ を と め が

ウ ー タ フ タ ウ エ ノ ウ タ キ ケ バ  
う ー た ふ た う 糸 の う た き け ば

田 植

ソ ロ ウ タ ソ ロ タ ヨ サ フ ト メ ガ ソ ロ タ  
こ と し は ほ う ね ん ほ に ほ か ー さ い て

イ ー ネ ノ デ ホ ヨ リ ナ ホ ソ ロ タ  
み ー ち の こ ぐ さ も こ め が な る

七、田 植

一、白い菅笠、赤たすき、  
揃ひ姿の早少女が

歌ふ田植の歌きけば、  
揃うた、揃たよ、早少女が揃た、  
稲の出穂よりなほ揃た。

二、植ゑる手先も、足取も、

節も揃へて早少女が  
歌ふ田植の歌きけば、  
今年は豊年、穂に穂がさいて、  
路の小草も米がなる。



# 竹の子

♩ = 84

竹の子

一 クライ オウチノ トヲアケテ  
ニひろい このよか うれしいか

コツ ソリ オモテヲ ミルヤウーニ  
やつ ぱり ひか げが こひしいか

ムツクリコ ムツクリコト ツチオシ アゲテ  
むつくりこ むつくりこと つちおし あげて

竹の子

タケノコ イツボン アタマヲ ダシタ  
たけのこ ぐんぐん おほきく なつた

# 八、竹の子

一、くらしいおうちの戸をあけて、

こつそりおもてを見るやうに、

むつくりこ、むつくりこと

土おしあげて、

竹の子一本頭を出した。

二、廣いこの世がうれしいか、

やつぱり日影がこひしいか、

むつくりこ、むつくりこと

土おしあげて、

竹の子ぐんぐん大きくなつた。



雨

♩ = 128

雨

一 フレフレアメヨ ミヤコノアメヨ  
二 ふれふれあめよ のなかのあめよ

ヲ マヤク ルマノ ツウ ライ タエ ス  
な す や き う り の は な さ き そ ろ ふ

マーチノ ホコリノ シヅマル ホドニ  
はたけの つちの うるほふほどに

110

雨

アメヨ フレフレ ホドヨクフレ  
あめよ ふれふれ ほどよくふれ

九 雨

一、降れ降れ雨よ、都の雨よ。

馬や車の往來絶えぬ

町の埃のしづまる程に、

雨よ降れ降れ、程よく降れ。

二、降れ降れ雨よ、田舎の雨よ。

茄子や胡瓜の花さき揃ふ

島の土のうるほふ程に、

雨よ降れ降れ、程よく降れ。

111



金 魚

♩ = 69

金 魚

一 ア カ イ オ ホ キ ナ ヒ レ ユ ラ ユ ラ ト  
ニ な が い み ご と な を を ふ り な が ら

キ ン キ ヨ ハ オ ヨ グ シ ツ カ ニ オ ヨ グ  
き ん き よ は う か ふ つ つ い て う か ふ

ミ ツ ト リ カ ヘ テ キ レ イ ニ ナ ツ タ ガ ラ ス ノ  
み な げ ん き よ く わ た し の や つ た ふ を た べ

ナ カ テ タ ノ シ サ ウ ニ ウ レ シ サ ウ ニ  
よ う 一 と う れ し さ う に た の し さ う に

金 魚

一〇、金 魚

一、赤い大きな鰭ゆらゆらと  
金魚は泳ぐ、静かに泳ぐ、

水とりかへて  
きれいになつたガラスの中で、  
たのしさに、うれしさに。

二、長い見事な尾を振りながら  
金魚は浮かぶ、つづいて浮かぶ、

皆元気よく  
私のやつた贅をたべようと、  
うれしさに、たのしさに。



蟬

♩ = 96

蟬

一 カミナリーカ トホクナール  
二 ゆふーたーちーが ひとしきーり

フクトモナシーニカセガフーク  
みどりのはからつゆがちーる

キトイフーキニハセミガナク  
すずしいーこゑでせみがなく

二四

蟬

一、蟬

一、かみなりが  
遠く鳴る。  
吹くともなしに  
風が吹く。

二、夕立が  
ひとしきり。  
木といふ木には  
蟬が鳴く。

涼しい聲で、  
蟬が鳴く。  
みどりの葉から  
露がちる。

二五







こ た ま

♩ = 104

こ  
だ  
ま

一 オウ イ ト ヨ ベ バ オウ イ ト コ タ ー へ  
二 や あ い と よ べ ば や あ い と か へ し

ダ レ タ ト イ へ バ ダ レ タ ト カ へ ー ス  
な ん だ と い へ ば な ん だ と ま ね ー る

ム カ フ ー ノ モ ー リ ニ ス ム モ ノ ー ハ  
む か ふ の や ー ま に す む も の ー は

こ  
だ  
ま

ヒ ト カ キ ツ ネ カ キ ノ セ イ カ  
ま ほ ふ ー つ か ひ か せ ん に ん か

一三、こ た ま

一、おういと呼べばおういと答へ  
誰だといへば誰だと返す。

むかふの森にすむものは  
人か、狐か、木の精か。

二、やあいつとよべばやあいつと返し、  
何だといへば何だとまねる。

むかふの山にすむものは  
魔法つかひか、仙人か。



浦島太郎

浦島太郎

♩ = 100

一 二 三 四 五

ム オ ア カ シ  
お ア と ひ  
か ソ へ つ め  
コ コ ロ コ

ム さ ア み ポ  
カ ま キ れ ソ  
シ の テ は ば  
ウ ゴ キ コ フ

ラ チ ガ は タ  
シ ろ ツ い ト  
マ ー イ カ レ  
ハ に テ に バ

輕快に  
mf

タ た オ も ア  
ス ー イ と 一  
ケ ひ ト ろ け  
タ や マ た テ  
カ ひ ゴ い ク  
メ ら 一 ハ ヤ  
ニ の モ も キ  
ツ ま ソ む タ

レ ど コ な バ  
ラ を ソ も テ  
レ ひ コ ら マ  
チ リ ニ く コ

リ ユ ウ  
た か み ナ

一 グ 一 ジ ャ ウ  
だ め ち ら ト  
一 へ ち に ョ  
カ カ ラ

一 し 一 へ く  
チ ユ チ ユ ノ  
キ ャ キ ャ

キ お タ ひ シ  
も ノ と ロ  
ミ シ シ び ケ  
レ ろ ミ と ム  
バ く ハ は リ

三〇

浦島太郎

エ つ ミ か タ  
一 き ヤ ー チ  
ニ ひ ゲ ほ マ  
モ の ニ も チ  
カ た モ し タ  
ケ つ ラ ら ラ ウ  
ナ も ツ な 一  
イ ー タ い ハ  
ツ ヨ タ も オ  
ツ め マ の チ  
ク の テ は イ  
シ う バ か サ  
サ ち コ リ ン

一四、浦島太郎

- 一、昔昔、浦島は  
助けた龜に連れられて、龍宮城へ来て見れば、  
繪にもかけない美しさ。
  - 二、乙姫様の御馳走に、鯛や比目魚の舞踊、  
ただ珍しくおもしろく、  
月日のたつも夢の中。
  - 三、遊にあきて気がついて、  
お暇乞もそこそこに、  
土産に貰った玉手箱、  
歸る途中の楽しみは、
  - 四、歸つて見れば、  
元居た家も村も無く、  
路に行きあふ人人は、  
心細さに蓋とれば、  
あけて悔しき玉手箱  
中からばつと白煙、  
顔も知らない者ばかり。
  - 五、
- これは如何に、  
たちまち太郎はお爺さん。



ポ プ ラ

♩ = 128

ボ  
プ  
ラ

*mp*

一タ カ イ ソ ラ ニ ッツ タ ッ ポ プ ラ  
ニく ら い よ る に つつ た つ ほ ぶ ら

*mf*

ボ  
プ  
ラ

ユフ ヒ ニ モ エ テ エ タ エ タ ノ  
てん ま で と ど く く ろ い か げ

キ ャ ノ キ ノ ハ ガ キ ラ キ ラ ト  
く ろ い こ ず ゑ が ひ そ ひ そ と

*mp*

ウ レ シ サウ ニ フ ル ヘ テ ル  
お ほ し さ ま と は な し て る

*mf*



一五、ポ  
プ  
ラ

一、高たかい空そらに、つつ立たつポ  
プ  
ラ、

夕ゆふ日ひにもえ  
て、

枝えだの

金きんの木きの葉はが

き  
ら  
き  
ら  
と、

嬉うれし  
さ  
う  
に  
ふ  
る  
へ  
て  
る。

二、暗くらい夜よに、つつ立たつポ  
プ  
ラ、

天てんま  
で  
と  
ど  
く

黒くろい影かげ

黒くろい梢こずえが

ひ  
そ  
ひ  
そ  
と、

お  
星ほしさ  
ま  
と  
話はなし  
て  
る。



かけっこ

♩=120

かけっこ

一 ア ツマレ ア ツマレ カケツ コ  
二 こんどは かへりの かけつ こ

ダ メ アテ ハ ム カフー ノ マ ツノ キ タ  
だ い ま で た と こ ま で も ど る の た

三六

かけっこ

ヨウ イガ ヨケレバ イチニ サン マケルナ  
よう いが よければ いちに さん まけるな

マケルナ アカカテ シロカテ  
まけるなしろかて あかかて

一六、かけっこ

一、集れ、集れ、かけつこだ。

目あては向かふの松の木だ。

用意がよければ、一二三、

まけるな、まけるな、

赤勝て、白勝て。

二、今度はかへりのかけつこだ。

今出たとこまで戻るのだ。

用意がよければ、一二三、

まけるな、まけるな、

白勝て、赤勝て。

三七



案山子

♩ = 112

案山子

一 ヤ マダ ノ ナ カノ イツホン アシノ カカシ  
ニ や まだ の な かの いつほん あしの かかし

チ ンキ ノ ヨ イノ ニ ミ ノカサ ツケテ  
ゆ みやで おどして り きんで をれど

ア サカヲ バ ンマテ タ ダタチ ドホシ  
や までは か らすか か あかと わらふ

案山子

ア ルケ ナ イノ カ ヤ マダノ カカシ  
み ーみか な いの か や まだの かかし

一七、案山子

一、山田の中の一本人足の案山子、  
天氣のよいのに蓑笠着けて、  
朝から晩までただ立ちどほし。  
歩けないのか、山田の案山子。  
二、山田の中の一本人足の案山子、  
弓矢で威して力んで居れど、  
山では烏がかあかと笑ふ。  
耳が無いか、山田の案山子。



か ん

♩=112

が  
ん

一 カンガク ル カンガク ル トンデ ク ル  
二 そらをとぶ くもをとぶ ないて とぶ  
三 カンガイ ク カンガイ ク トンデ イ ク

*mp*

オホ キナガ ンハ サキニ チヒ サナガ ンハ アトニ  
さきのかんも ないた あとのかんも ないた  
チヒ サナガ ンハ サキニ オホ キナガ ンハ アトニ

*mf*

カンガク ル カンガク ル トンデ ク ル  
そらをとぶ くもをとぶ ないて とぶ  
カンガイ ク カンガイ ク トンデ イ ク

*mp*

一八、 雁

- 一、 雁が来る、 雁が来る、 飛んで来る。  
大きな雁はさきに、 小さな雁はあとに。  
雁が来る、 雁が来る、 飛んで来る。
- 二、 空を飛ぶ、 雲を飛ぶ、 鳴いて飛ぶ。  
さきの雁も鳴いた、 あとの雁も鳴いた。  
空を飛ぶ、 雲を飛ぶ、 鳴いて飛ぶ。
- 三、 雁が行く、 雁が行く、 飛んで行く。  
小さな雁はさきに、 大きな雁はあとに。  
雁が行く、 雁が行く、 飛んで行く。



# 富士山

♩=96

富士山

Musical score for the first system, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes dynamic markings *mf* and *p poco rit.*

一 ア タ マ フ ク モーノ ウ ヘ ニ ダー シ  
二 あ を ぞ ら た か く そ び え た ー ち

Musical score for the second system, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes dynamic markings *mf a tempo* and *mf*.

シ ハ ウー ノ ヤー マ フ ミ オ ロー シー テ  
か ら た に ゆー き の き も のー きー て

Musical score for the third system, featuring a vocal line and piano accompaniment.

四二

富士山

Musical score for the first system of the second page, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes dynamic markings *mp* and *mf*.

フ ジ ハ ニ ツ ボ ン イ チ ノ ヤ マ  
ふ じ は に つ ぼ ん い ち の や ま

Musical score for the second system of the second page, featuring a vocal line and piano accompaniment. The piano part includes a dynamic marking *f*.

## 一九、富士山

一、あたまを雲の上に出し、

四方の山を見おろして、

かみなりさまを下に聞く、

富士は日本一の山。

二、青空高くそびえ立ち、

からだに雪の着物着て、

霞のすそを遠く曳く、

富士は日本一の山。

四三



# 影法師

♩ = 80

影法師

一 ピヤノノオトニ アシナミソロへ  
ニ なかよし どうし てとてをひいて

ミン ナデ ナカヨク イウ キヲ スレバ  
ゆふ ひのこみちをかへろとすれば

マツ クロクロノ カゲボフーシ  
ながいながい かげぼふーし

四四

影法師

ヤツ パリソロッ テヲドツ テル  
やつ ぱりならん てついてくる

## 二〇、影法師

一、ピアノの音に足並そろへ、  
みんなて仲よく遊戯をすれば、  
まつくろくろのかげぼふし、  
やつぱり揃つてをどつてる。

二、仲よし同志手と手をひいて、  
夕日のこみちを歸ろとすれば、  
ながいながいかげぼふし、  
やつぱり並んでついてくる。

四五



紅葉

♩ = 92

紅葉

— ア キノユフ — ヒ ニ テ ル—ヤ マ モ ミ—チ  
 ニ た にのな が れ に ち り—う く も み—ち

*mp*

コ イモウ ス イ モ カズ—アル ナ カニ  
 な みにゆ ら れ て は な—れ て よ つ て

*mf*

マ ッヲイ ロ ド ル カヘ—テ ヤ—ツ タ ハ  
 あ かやき い ろ の い ろ—さ ま—ざ ま に

*mf*

紅葉

ヤ マノフ モ ト ノ ス ソ—モ ヤウ—  
 み づのう へ に も お る—に し き

*mp*

二、紅葉

一、秋の夕日に照る山紅葉

濃いも薄いも数ある中に

松をいろどる楓や葛は

山のふもとの裾模様

二、溪の流に散り浮く紅葉

波にゆられて離れて寄つて

赤や黄色の色さまざまに

水の上にも織る錦



時計の歌

時計の歌

♩ = 92

一 ト ケイ ハ ア サ カ ラ カ ッ チ ン カ ッ チ ン  
 ニ と け い は ぼ ん で も か つ ち ん か つ ち ん

オ ン ナ ジ ヒ ビ キ デ ウ ゴ イ テ フ レ ド モ  
 わ れ ら が ね ど こ で や す ん で を る ま も

チ ッ ト モ オ ン ナ ジ ト コ ロ フ サ サ ズ ニ  
 ち つ と も や す ま す い き を も つ が ず に

時計の歌

バ ン マ デ カ ウ シ テ カ ッ チ ン カ ッ チ ン  
 あ さ ま て か う し て か つ ち ん か つ ち ん

三、時計の歌

- 一、時計は朝から、かつちん、かつちん、  
おんなじ響で動いて居れども、  
ちつともおんなじ所を指さずに、  
晩までかうして、かつちん、かつちん。
- 二、時計は晩でも、かつちん、かつちん、  
我等が寢床で休んで居る間も、  
ちつとも休まず、息をもつがずに、  
朝までかうして、かつちん、かつちん。



うちの子ねこ

♩=104

うちの子ねこ

—ウ チノ コネコ ハカ ハイイ コネコ  
ニウ チの こねこ はか はいい こねこ

ク ビノ コスズヲ チリチリ ナラシ  
く びの こすずを ちりちり ならし

ス—ソ—ニ カ ラマーリ タモトニス ガル  
ま—り—と じや れて—は えんからお ちる

五〇

うちの子ねこ

三三 うちの子ねこ

一、うちの子ねこは

かはいい子ねこ、

くびのこすずを

ちりちりならし、

すそにからまり、 たもとにすがる。

二、うちの子ねこは

かはいい子ねこ、

くびのこすずを

ちりちりならし、

まりとじやれてはえんからおちる。

五一



雪

♩ = 92

雪

mp

ユ キ ヤ コン コ ア ラレ ヤ コン コ  
ニ ヲ キ ヤ コン コ あ ら れ ヤ コン コ

mf

フツ テ ハ フツ テ ハ ズ ンズン ツ モル  
ふつ て も ふつ て も ま だ ふ り や ま ぬ

雪

ヤ マ モ ノ ハ ラ モ ワ タ バ ウ シ カ プ リ  
い ぬ は よ ろ こ び に は か け ま は り

f

カ レ キ ノ コ ラ オ ハ ナ ガ サ ク  
ね こ は こ た つ て ま る く な る

二四、雪

一、雪やこんこ、霰やこんこ。

降つては降つては、

ずんずん積る。

山も野原も綿帽子かぶり、

枯木残らず花が咲く。

二、雪やこんこ、霰やこんこ。

降つても降つても、

まだ降りやまぬ。

犬は喜び庭駆けまはり、

猫は火燧でまるくなる。



梅に鶯

梅に鶯

♩=100

一 ヒノヨクアタルニハサキノ  
二 なくのをきいてえんかはの

カキネノウメガサイケカラ  
かーごのなかでもうぐひすが

五四

梅に鶯

マ イアサキテハ ウグヒスガ  
か きねのほうーを なかめては

カハイイコエテホウホケキヨウ  
てうーしをあはせてほうほけきよう

二五、梅に鶯

五五

- 一、日のよくあたる庭前の  
垣根の梅が咲いてから、  
毎朝来ては鶯が  
かはいい聲で  
ほうほけきよう。
- 二、鳴くのを聞いて、縁側の  
籠の中にも鶯が  
垣根の方を眺めては、  
調子を合はせて  
ほうほけきよう。



母の心

♩=80

母の心

—アサーハヤクカラキドバタダ  
ニよる—おそくまでおくのまに

ハハハセイダスアラヒモノ  
はははせいだすはりしごと

タラヒノナカニアルハナーニ  
ひぎのうへにはな—にかあ—る

五六

母の心

コレハタラウ—ノコクラノハカマ  
これはおはるのはれぎのはおり

タラウ—キ、スフ—ハウンドウ—クワイテ  
おはるあしたはひなさままつり

ド—ロニヨゴシタコノハカマ  
き—せてやりたいこのはれぎ

五七



二六、母の心

一、朝早くから井戸ばたで、

母はせいだす洗物。

たらひの中にあるは何。

これは太郎の小倉の袴。

太郎昨日は運動會で、

泥によごしたこの袴。

二、夜遅くまで奥の間に、

母はせい出す針仕事。

ひぎの上には何がある。

これはお春の晴着の羽織。

お春明日は雛様祭。

着せてやりたいこの晴着。



那須餘一

那須餘一

♩ = 88

一ヶ ンメ イ ショウ プ ノ ハ レ ノ バ ショ  
ニ あ ふ 一 ぎ は ゆ ふ ひ に き ら め き て

ブ ウ ン ハ コ ノ ヤ ニ サ ダ マ ル ト  
ひ ら ひ ら お ち ゆ く な み の う へ

六〇

那須餘一

ナ ス ノ ヨ イ チ ハ イ ツ レ ン フ ラ ン  
な す の よ い ち の ほ ま れ は い ま り

ネ ラ ヒ サ ダ メ テ ヒ ヨウ ー ト イ ル  
や し ま の う ら に 一 な り ひ び く

二七、那須餘一

六一

一、源平勝負の晴の場所、

武運はこの矢に定まると、

那須餘一は一心不亂、

ねらひ定めてひようと射る。

二、扇は夕日にきらめきて

ひらひら落ちゆく波の上、

那須餘一の譽は今も、

屋島の浦に鳴りひびく。



新訂  
尋常小學唱歌  
伴奏附

不許複製

15

第二學年用 定價金參拾四錢

昭和七年五月二十四日 印刷  
昭和七年五月二十八日 發行  
昭和十年六月十五日訂正發行



著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 取締役社長 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

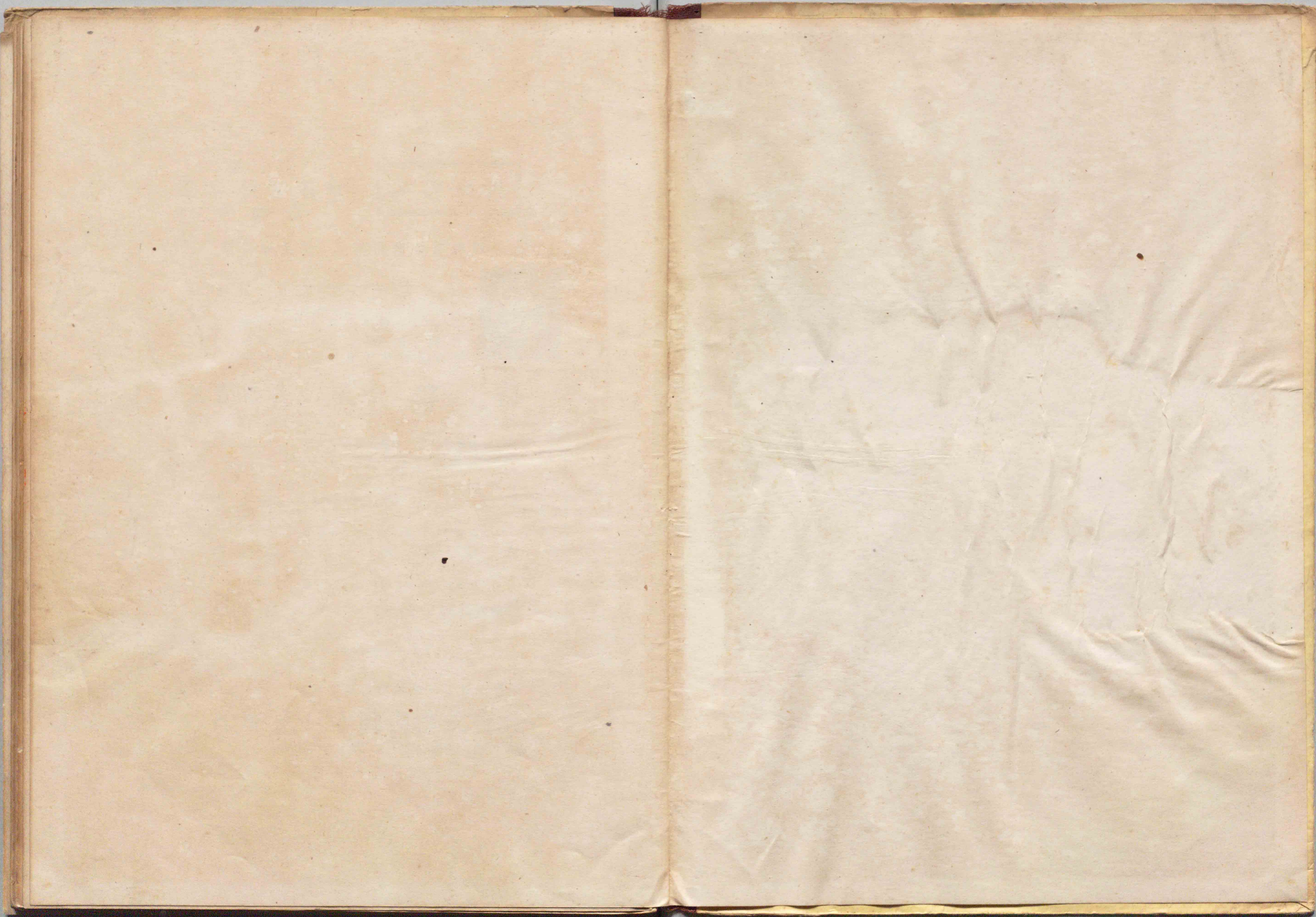
印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座〔東京二一九番〕電話京橋二七三番二七四番







柿本美代女

